

集会活動の手引き

5 集会の評価

教師は、集会の後、評価を行います。その集会を成功させるために、一人ひとりの子どもがどんな活躍をしたのかを記録しておくといよいでしょう。

(1) 子どもへの評価

集会プログラムの最後の「先生の話」の中で、集会の計画から実践に至るまでの過程での子どもたちの活躍を、具体的に誉めてあげたいものです。誉める観点は一人ひとり違いますので、一概には言えませんが、一人ひとりの伸びを明らかにしてあげることが大切です。

(2) めざすものとの関わり

評価とは、ねらいの裏返しでもあります。イベントを行う場合に、子どもたちと一緒に楽しむことも大事ですが、ねらいを頭において子どもたちと関わっていくことも大事なことです。

① 特別活動でめざす資質や能力

- ◇学校生活の向上やよりよい生活を目指し、身のまわりの諸問題に関心をもち、友達と協力して望ましい行動をしようとする。(関心・意欲・態度)
- ◇集団における自己の役割を考え、身のまわりの諸問題の解決を目指して判断している。(思考・判断)
- ◇話合いや集会など友達と活動する過程において、自分の考えを的確に発表したり、集団活動を進めるために必要な技能を身につけている。(技能・表現)
- ◇生活や学習への適応、健康で安全な生活、集団活動の進め方などに関する基礎的な事項を理解している。(知識・理解)

「特別活動指導資料 平成5年度版(文部省)」より

これら4つの観点と集会づくりのプロセスとの関連で評価項目を作っておかれるといよいでしょう。

② 学級活動で身に付けさせたい10の学力

- その1 計画力：活動内容や手順などを計画する力
- その2 目的達成力：計画、実践を振り返りながら、みんなでやり遂げる力
- その3 発想力：問題や話題に対して自分なりの考えを出す力
- その4 提案力：問題に気づき、提案する力
- その5 創造力：先行経験等を生かして、新しい考えを生み出す力
- その6 内的追求力：自分の考えや言動をよりよいものに変えていく力
- その7 役割遂行力：自分の役割をやりぬく力
- その8 受容力：友達のよさに気づき、認める力
- その9 組織運営力：組織的に運営する力
- その10 社会適応力：集団生活に適応する力

教師が押さえておきたいものとして、10の学力をあげてみました。学年の発達段階に合わせて、具体的な姿を考え、活動の記録用紙を作っておくと便利です。